

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202824		
法人名	有限会社 アドスコミュニティーズ		
事業所名	グループホーム ポプラ		
所在地	札幌市北区新川3条4丁目8番40号 (電 話) 011-766-1177		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月10日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】(22年 1月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 2月 2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 7人、 非常勤 12人、 常勤換算	15.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱費:20,000 円 暖房費:7,000 円(11～3月)
敷 金	(有) (50,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,333円 (1ヶ月:40,000円)		

(4) 利用者の概要(3月 10日現在)

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌みどりのクリニック、メンタルケア札幌、ゆき小児歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム ポプラ」は住宅街に立地しており、幼稚園や小学校、スーパーマーケット、公園などが近くにあり、地域との交流や暮らしに便利な環境にある。運営者である施設長は、利用者が地域住民との触れ合いの中でその人らしく暮らす個別ケアを重要視し、職員と一緒にケアを行っている。町内会から避難訓練の参加や運営推進会議を通して積極的な協力があり、一方、事業所も「子供避難所」に登録し地域で助け合う関係を築いている。介護度が重い利用者も外気に触れて住民と交流し地域に溶け込んでいる。職員は内外の研修会で学び、質の高いケアを提供するために努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で取り上げた栄養バランスの専門的なチェックは、主治医に相談しながら1日を通して健康状態をチェックし把握している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は昨年の評価を参考に全職員が項目に記入し、施設長と各ユニットの管理者でまとめている。外部評価の結果後に課題や取り組みについて話し合う予定でいる。職員は評価表に記入することで課題について振り返る機会になったと受け止めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族の代表、町内会役員、地域包括支援センター職員の他、近くにある2ヶ所のデイサービス事業所職員の参加もあり、2ヶ月ごとに開催している。事業所の行事や活動、外部評価の結果などの報告や避難訓練、地域との関わりについて意見を交わしサービスに繋げている。会議に家族の参加が減少傾向にあるので参加への工夫を検討しているところである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に居室などで記録を見てもらい、支援方法について話し合い意向を汲み取っている。年に4回、家族にアンケート調査を行い施設長が受け取る形をとり、意見などは職員会議で対応を話し合い改善している。特に必要なことは勉強会で取り上げ運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所通信を回覧してもらう、また地域の新聞記事に取り上げてもらうなど、認知症に対する住民の理解が得られるように働きかけている。近隣のフリーマーケットでコーヒーを飲み買い物をする、また散歩をする中で住民との触れ合いが日常的にある。近所の人が事業所の玄関前を除雪し、庭の花を届けてくれるなどの身近な関係が築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を図りながらその人らしい生活を提供するという内容の理念を作り、運営方針には介護サービスの提供に、やさしい手、支える手を基本精神として介護の質を高めることを定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と運営方針は玄関ホールや廊下、職員の休憩室に掲げて意識している。職員の採用時に理念を伝え、職員会議や勉強会、またカンファレンスなどで、その人らしい暮らしが尊重されているか確認している。職員は理念を共有し、利用者の生活リズムに沿っての支援を心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として、住民との身近な交流を大切にしている。町内会の運動会を見学する中で子供と交流し、清掃や花壇の花植えに利用者と一緒に参加している。近隣のフリーマーケットでコーヒーを飲み買い物をする、また散歩をする中で住民との触れ合いが日常的にある。近所の人が事業所の玄関前を除雪し、庭の花を届けてくれるなどの身近な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議で自己評価の意義や取り組みを説明し、全職員は昨年の評価を参考に項目ごとに記入し、施設長と各ユニットの管理者でまとめている。外部評価の結果後に課題や取り組みについて話し合う予定でいる。職員は評価表に記入することで課題について振り返る機会になったと受け止めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の代表、町内会役員、地域包括支援センター職員の他、近くにある2ヶ所のデイサービス事業所職員も参加し、2ヶ月ごとに開催している。事業所の行事や活動、外部評価の結果などの報告や避難訓練、地域との関わりについて意見を交わしサービスに繋げている。会議に家族の参加が減少傾向にある。	○	運営推進会議の理解を深めるために、前回の会議記録を同封し、次回の会議の案内を全家族に送るような工夫で、参加への関心が得られるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1～2回は市や区に出向き、介護認定の申請や事務的な書類を届ける機会に担当者に相談し、制度的な対応や法改正についてのアドバイスをもらいサービスに繋げている。生活保護の担当者が来訪の際には意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ポプラ便り」を発行し、施設長から事業所の一般的なことや職員の交代を報告している。また担当職員は手紙で利用者の暮らしを報告し、通信と一緒に送っている。家族の来訪時には時間を取って利用者の暮らしや健康面を詳細に報告し、また金銭明細書に確認のサインをもらい原本を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に居室などで記録を見てもらい、支援方法について話し合い意向を汲み取っている。年に4回、家族にアンケート調査を行い施設長が受け取る形をとり、意見などは職員会議で話し合い改善している。特に必要なことは勉強会で取り上げてサービスに活かすようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の面談や職員間のコミュニケーションの機会を多く作り、離職を最小限に抑えるように努力している。他の職員とも馴染みの関係を作っているため担当職員の退職による利用者のダメージはないが、利用者の精神的な面に配慮し対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は外部から研修情報を収集し、管理者や職員に必要な研修を受講させている。費用は会社が負担している。北海道認知症高齢者グループホーム協議会、北海道シルバーサービス振興会、民間介護事業者協議会などの研修に参加し、内容を職員会議で報告している。事業所内でも毎月勉強会を開き、また職員の自主的な取り組みもあり熱心に学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議の研修に職員も参加し他事業所の職員と交流している。また同会で取り組んでいる地域の事業所間の交流企画で、代表、管理者、職員が地域の5事業所を見学し、相互訪問の中で意見や情報を交換し、サービスの質向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族、本人に見学を勧め、食事やお茶を飲み、また希望があればレクリエーションに参加し、体験を通して安心できるように配慮している。本人の見学が難しい時は訪問して顔を覚えてもらい、納得してサービスの利用ができるように時間をかけて対応している。入居後は利用者の生活リズムを把握し、声かけを多くして馴染めるように関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重要視し、その人なりを理解する中で日常的に教わることが多い。また、利用者同士の会話や付き合い方を見て気付かされることもある。職員は掃除の後に感謝の気持ちを伝え、また居室で話を聞いたり、夜勤の時にじっくり相談し合うなどして、利用者と一緒に助け合う関係を築きながら共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント情報から利用者の思いを把握し、会話の中でも本人の意向を聞き出し計画書に反映させている。一言の発語や仕草、表情からも意向を汲み取り、職員間で情報を共有している。利用者にとって最も良いことを家族とも話し合い、個別ケアに沿って対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始時の介護計画はセンター方式のアセスメント用紙を使用して、家族や医師、在宅時のケアマネジャーから情報を得て暫定的な介護計画を作成している。利用開始後1週間から1ヶ月の間で本人の状況を把握して、本プランを作成している。介護計画は家族に説明して署名捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っている。カンファレンスを開いて職員の意見や医師からの情報を得て本人の状況を把握し、ケアマネジャーと管理者が中心になって介護計画を作成している。退院時や精神症状の変化、薬が変わった時などに見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、洋服や食べ物など個別の買い物に出かけるなど柔軟に支援している。家族の状況に応じて、かかりつけ医の送迎を行っている。遠方の家族が訪問した時は、希望に応じて宿泊できるように寝具や個室を準備している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続が可能であることは伝えているが家族送迎を基本としており、その対応が難しいこともあり協力医療機関での診療を希望する家族が多くなっている。月1回の医師の往診と訪問看護ステーションの看護師による週1回の訪問があり、利用者の健康管理を行っている。事業所で受診支援をした時は家族に結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化に対する指針」や「看取りに関する指針」、「看取り介護に対する同意書」や「終末期生活支援に関する覚書」など、重度化や終末期に関して事業所の方針を文書化して利用開始時に家族に説明して同意を得ている。利用者の状況に応じて医師や家族と繰り返し話し合いを行い、訪問看護師と共に家庭と同じように可能な限り看取りを行う意向である。	○	訪問看護師による看取りに関する勉強会を行うことで、看取りケアのサービス向上に繋がっていきたい意向なので、その取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者は利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけをして本人の意志を確認してからケアに入るように指導している。排泄誘導は耳元で声かけをしたりトイレの入口に暖簾をかけるなどして、プライバシーに配慮している。個人情報などの記録は、スタッフルームなど職員以外に入らない場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつなど基本的な1日の流れはあるが、職員の業務を優先することなく個別ケアを重視している。朝早く起きた利用者には早めの食事や豆乳などを提供したり、遅く起きた利用者には時間をずらして朝食を提供している。利用者は歌詞カードを見ながら懐かしい歌をうたったり、カルタ、買い物などに出かけて過ごしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を入れながら職員が1週間ごとに交替で作成している。野菜の皮むきや味見、みそ汁やご飯の盛り付け、下膳や後片付けなど利用者の残存能力を活かしながら手伝ってもらっている。夏季は週1回程度外食に出かけて、蕎麦やラーメン、ハンバーグや寿司など利用者の好みの物を食べて食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は利用者が座って入れるように段差をつけるなどの工夫がされている。毎日午後2時～3時半頃を入浴時間として、週2回以上入れるように支援しているが、希望に応じて入浴回数を増やしたり、午前入浴も可能になっている。入浴日でない利用者は足浴を行っている。現在、入浴を拒否する利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じて洗濯物干しや洗濯物たたみ、観葉植物の水やり、畑仕事、日めくりをめくるなどの役割を持って過ごしている。年間行事と共に個別の外出や買い物、気の合う利用者とのおしゃべり、歌をうたう、ビデオを見るなどして利用者は毎日楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の天気の良い日は毎日公園に行ったり、町内一周の散歩、買い物などに出かけている。車椅子利用者も一緒に近隣の庭を見たりして散歩を楽しんでいる。冬季は道路の状態に応じて大型ショッピングセンターに出かけて、買い物やお茶を飲んで楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全体の玄関にセンサーを付け、各ユニット玄関には鈴や音楽でドアの開閉を把握できるように工夫して、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出した時は職員も一緒に出かけて安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各ユニットごとに避難マニュアルを作成している。今年度は消防署の協力の下、5月と12月に夜間を想定した避難訓練を地域役員も参加して行われている。訓練後は消防署から避難時に対するアドバイスをもらい、次回に役立てるようにしている。	○	地域を含めた災害時の連絡網を作成する予定なので、その取り組みを期待したい。また、利用者を含めた避難訓練の実施と、職員の定期的な救急救命訓練の講習受講を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は毎日個別に記録している。水分は1日1000cc～1200ccを目標に、お茶の他にもジュースやコーヒー、スポーツドリンクなどを準備して、利用者の好みの物で十分な水分摂取ができるように工夫している。食事は利用者の摂取状況に応じて、刻み食やとろみ食などで十分な栄養摂取ができるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営者は共有空間の中にも個々の利用者が自分の居場所と思える場所を確保するように配慮している。観葉植物や縫いぐるみなどがさり気なく飾られ、家庭的な温かさと生活感が感じられる。玄関には収納式の椅子があり、利用者が靴を履きやすいように工夫されている。廊下の隅にテーブルと椅子を配置して、居間や居室以外でも利用者が落ち着いて過ごせるような空間作りに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口には季節感が感じられる利用者手作りの雛人形が飾られている。窓際にはカウンターが設置されており、花を飾ったり机代わりに使用するなど、思い思いに利用できるように工夫されている。室内には箆笥やソファ、テレビなど使い慣れた家具や馴染みの物も持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。